

本の紹介、「ブリティッシュ・コロンビア州沿岸の日系カナダ人漁民：簡単な履歴と写真」（フカ
ワ・マサコ編集、Harbour Publishing 発行、2007 年）

2026 年 5 月 5 日、アルバータ州セント・アルバート市

大木 崇

1. はじめに

本書の序文では、日系漁師の歴史が一世紀の区切りを迎えつつあるという強い危機感から、このプロジェクトが始まった経緯が述べられています。高齢化が進み、漁師として生きた父親たちが次々と亡くなっていく中で、三人の漁師の息子たちは、「先人たちが経験した苦労と犠牲を後世に残さなければならぬ」と痛感しました。こうした思いに賛同する仲間とともに、日系漁師リユニオン委員会が結成され、三つの記念事業が計画されました。

第一の事業は、2001 年 11 月 3 日に開催されたリユニオン・ディナーで、全国から高齢の漁師たちが集まり、戦時中の強制移動以来、数十年ぶりに再会した人々もいました。第二の事業は、2002 年 9 月 20 日にスティーブストンのフレイザー川沿いに建立された日系漁師記念像の除幕式であり、BC 州副総督や日本国総領事など多くの来賓が出席しました。その後、2004 年には高円宮妃久子殿下が訪問され、日加外交関係 75 周年を記念して記念像を再献納されました。

第三の事業として、2003 年に日系漁師漁民史出版委員会が発足し、本書の編集作業が本格的に始まりました。委員の多くは漁業に深く関わってきた人々で、現役漁師や元漁師、缶詰工場の従業員、デッキハンド、パッカーの船長など、多様な経験を持つメンバーが参加しました。彼らは 130 年以上にわたる資料を収集し、最終的に 3,680 名の日系漁師の名前と、767 名の詳細な簡単な履歴および写真をまとめることに成功しました。

序文では、資料収集の困難さにも触れられています。戦前・戦後の記録が限られていることや、高齢の関係者が多いことから、情報の不足や不確かさが避けられなかったと述べられています。それでも、多くの家族や地域社会の協力により、この貴重な記録を後世に残すことができたことへの深い感謝が示されています。また、タイトル「潮流」は、130 年余りにわたる日系漁師の歩みを象徴する言葉として選ばれたことが説明されています。

2. 序文

本書の序文では、掲載された簡単な履歴と写真がどのように収集されたか、その長い過程が詳しく説明されています。最初の取り組みは 2001 年で、リユニオン・ディナーの招待者を把握するため、

漁師本人や未亡人にアンケートが送付されました。このアンケートでは、氏名、生年、漁業経験年数、使用した船や漁具、操業した地域、配偶者名などが尋ねられ、写真の提供も依頼されました。

2003年に日系漁師漁民史出版委員会が発足すると、このアンケートを基に、より詳細な質問票が作成され、漁師やその家族に郵送または直接手渡しされました。回答は文書、電話、面談などさまざまな形で寄せられました。その後も英語・日本語メディアを通じて繰り返し呼びかけが行われましたが、最も多くの情報は委員による個別の働きかけによって集まりました。

また、プロジェクトの認知度を高めるため、スティーブストン・サーモンフェスティバル、パウエルストリート・フェスティバル、バーナビーの日系博物館で写真展示が行われました。委員会は60回に及ぶ作業会議を重ね、767名分の履歴を精査し、不明点があれば電話や訪問で確認しました。さらに、約2,000枚の写真がスキャンされ、整理されました。

2004年には、各回答者に履歴の草稿が送付され、多くの人が修正や追加情報を返送しました。プロジェクトの存在を知らなかった人々から新たな提出希望が寄せられたため、締切は何度も延長されました。2006年11月5日には、スティーブストン仏教会で進捗報告会が開かれ、最終確認が行われました。

序文全体を通じて、委員会が正確性と包括性を重視し、地域社会と協力しながら歴史を記録しようとした姿勢が強調されています。戦前の差別、戦時中の強制移動、戦後の再建という厳しい歴史を生き抜いた日系漁師たちの歩みを後世に伝えるための、丁寧で粘り強い取り組みであったことが伝わってきます。

3. 履歴の例

アマダツ、ツネモリ

1913年7月2日に日本の鹿児島県で生誕。1978年3月に死亡しました。若い頃に父親とともにスキーナ川で漁をするために日本から渡加。戦前はサンベリー、プリンスルパート、クイーンズボローに居住。クボ・トシと結婚（2002年12月10日死亡）。4人の子どもと4人の孫に恵まれる。

漁業経験：通算35年

漁業での最初の仕事：父親のもとでデッキハンドとして働き、スキーナ川で櫓と帆を使った漁を行う。

戦時中：アルバータ州タバーやレースブリッジのビート農場、マニトバ州の製材所、オンタリオ州ジェラルトンの伐採キャンプなどで働く。1949年に沿岸部へ戻り、リッチモンド東部のルル島に居住した。

戦後：Jean A、Merrimac という船でギルネット漁を行い、Glenrose Fishing Co.、New England Cannery、Nelson Bros Fisheries のためにスキーナ川、フレーザー川、リバーズインレットで操業。1972年に引退。

地域活動：スティーブストン仏教会、詩吟クラブ、UFAWU（漁業労働組合）に所属。

補足情報：戦前のオフシーズンにはパウエルリバーの製紙工場で働く。妻のトシは45年間ネットウーマンとして働く。娘のジーンも夏休みの間、缶詰工場で働く。